

野菜の需給・価格動向レポート(平成29年2月27日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

・レポートの読み方については、注意書きを参照してください。

種類	1月の価格情報		2月		2月中旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の3月上旬までの見通し		
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格					
キャベツ	96.86	99	96.86	117	116	・7.553t (94%)	愛知(67),千葉(15)	平均価格 	愛知産は、1月中旬以降の低温及び干ばつの影響により生育遅れとなっていることから、現在平年よりやや少なめの出荷となっているものの、2月の気温の上昇や適度な降雨により生育は回復してきていることから、今後は平年並みの出荷の見込み。千葉産は、2月の好天により生育は順調で前進出荷となっていることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。
	(102%)	92.10	98	92.10	119	120			
たまねぎ	83.77	81	83.77	82	86	・7.546t (120%)	北海道(84)		北海道産は、貯蔵物からの出荷となっており、作柄が良かったことから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。
	(97%)	83.77	77	83.77	79	80			
ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	252.99	248	252.99	262	323	・1.624t (89%)	千葉(40),埼玉(26),群馬(13),茨城(11)		千葉産は、1月以降の低温の影響による葉先の枯れや強風による折損等が散見されることから、現在平年よりやや少なめの出荷となっているものの、今後は2月以降の気温の上昇により生育が回復してきていることから、今後は平年並みの出荷の見込み。埼玉産は、天候に恵まれ生育は順調で太りも良いことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。群馬産は、雨が少なく干ばつ傾向で、葉先の枯れ等も発生していることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。
	(98%)	473.04	418	473.04	492	529			
はくさい	64.18	79	64.18	80	101	・3.997t (83%)	茨城(67),群馬(18)		茨城産は、秋冬ものが終盤を迎える中、前進出荷の影響により、ほ場の残量が少なく小玉傾向であることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。群馬産は、天候に恵まれ生育は順調であるものの、前進出荷の影響及び小玉傾向となっていることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。
	(123%)	68.70	86	68.70	92	113			
ほうれんそう	338.43	473	338.43	422	419	・938t (118%)	群馬(25),茨城(25),埼玉(21)		群馬産は、天候に恵まれ日照も多いことから生育は順調で、引き続き平年より多めの出荷の見込み。茨城産は、天候に恵まれ日照も多いことから生育は順調で、引き続き平年より多めの出荷の見込み。埼玉産は、出荷のピークを過ぎ、一部の産地で病害や黄変が散見されることから、現在平年よりやや少なめの出荷となっているものの、今後は病害等も落ち着くと見込まれることから、平年並みの出荷の見込み。
	(140%)	375.38	534	375.38	527	503			
レタス (結球)	233.85	231	233.85	230	206	・2.692t (98%)	静岡(33),香川(12),茨城(12),兵庫(9)		静岡産は、現在平年並みの出荷となっているものの、今後は前進出荷の影響から、平年よりやや少なめの見込み。香川産は、1月中旬以降低温及び干ばつ傾向となっているものの、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、天候に恵まれ生育は順調で、現在平年よりやや多めの出荷となっているものの、今後は前進出荷の影響から、平年並みの出荷の見込み。兵庫産は、2月の気温上昇により生育は概ね順調で、引き続き平年並みの出荷の見込み。香川産、茨城産及び兵庫産の出荷が平年並みと見込まれるものの、静岡産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、平年並みに推移する見込み。
	(99%)	226.75	230	226.75	227	205			
きゅうり	370.98	370	370.98	321	298	・2.996t (109%)	宮崎(32),千葉(20),高知(18)		宮崎産は、天候に恵まれ生育は順調であることから、現在平年並みの出荷となっており、後続の作型は更に生育が順調であることから、今後は平年よりやや多めの出荷の見込み。千葉産は、天候に恵まれ生育は順調であり、日照も確保できていることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。高知産は、天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
	(100%)	350.33	351	350.33	312	291			
トマト (大玉)	349.23	374	349.23	382	364	・3.037t (110%)	熊本(34),栃木(19),愛知(12)		熊本産は、前年の天候不順による日照不足の影響で着果不良となった段からの出荷となっていることから、現在平年より少なめの出荷となっているものの、今後は安定した着果となった段からの出荷に移行していくことから、平年並みの出荷の見込み。栃木産は、天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。愛知産は、天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
	(107%)	326.61	355	326.61	368	352			
なす	389.03	423	389.03	424	423	・816t (98%)	高知(64),福岡(16)		高知産及び福岡産は、天候に恵まれ生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
	(109%)	397.74	414	397.74	407	406			
ピーマン	578.80	584	578.80	605	592	・743t (115%)	宮崎(43),高知(21),鹿児島(18)		宮崎産は、天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。高知産は、草勢は弱めであるものの、12月以降の好天及び気温が高めに推移したことにより、生育は概ね順調で、引き続き平年並みの出荷の見込み。鹿児島産は、天候に恵まれ適度な降雨もあり生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
	(101%)	565.30	551	565.30	565	562			
だいこん	79.03	75	79.03	82	87	・4.856t (101%)	神奈川(54),千葉(32)		神奈川産は、天候に恵まれ生育は順調で太りも良いことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、現在平年よりやや多めの出荷となっており、天候に恵まれ生育は順調で太りも良く、前進出荷となっていることから、今後は平年より多めの見込み。
	(95%)	80.47	68	80.47	72	72			
にんじん	111.16	139	111.16	136	144	・2.767t (88%)	千葉(80)		千葉産は、天候に恵まれ生育は順調で太りも良いものの、播種期の台風等による苗の流亡等の影響から、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。
	(125%)	109.97	125	109.97	126	129			

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成20～25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成27年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したものである。

1 主要野菜の生産出荷状況

・レポートの読み方については、注意書きを参照してください。

種類	1月の価格情報		2月		2月中旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の3月上旬までの見通し			
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均価格	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均価格						
いも類	さといも	228.85	225 (98%)	228.85	210 (92%)	238 (104%)	・219t (110%)	千葉 (34) , 埼玉 (33)	→	千葉産は、貯蔵物からの出荷となっており、9月の台風の影響で小玉傾向となっていることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。埼玉産は、貯蔵物からの計画的な出荷となっており、作柄が良く大玉傾向であることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。
	いも	219.65	234 (107%)	219.65	228 (104%)	245 (112%)	・68t (139%)	愛媛 (61) , 宮崎 (21)		
	ばれいしょ	96.99	190 (196%)	96.99	204 (210%)	209 (215%)	・2,489t (68%)	北海道 (59) , 鹿児島 (30) 長崎 (10)	→	北海道産は、貯蔵物からの計画的な出荷となっており、8月末の台風による大雨の影響などで歩留まりが低下しており、肥大もあまり良くないことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。鹿児島産は、一部産地では生育の遅れがみられるものの、順調な生育となっており、肥大も良好であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		96.99	179 (185%)	96.99	193 (199%)	213 (220%)	・1,099t (76%)	北海道 (71) , 鹿児島 (24)		

注：1 平均価格は、過去6カ年（平成20～25年）の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均（消費税は除く）で、保証基準額の算定の基となる価格。
 2 旬別平均価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額（平均価格の90%）を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
 3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
 4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアで平成27年実績である。
 5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したものである。

1 主要野菜の生産出荷状況（特定野菜）

種類	1月の価格情報		2月		2月中旬の東京及び大阪市場の入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の3月上旬までの見通し			
	(参考) 過去5カ年平均価格	東京・大阪市場の旬別平均価格	(参考) 過去5カ年平均価格	東京・大阪市場の旬別平均価格						
洋菜類	ブロッコリー	385.82	465 (121%)	356.04	385 (108%)	360 (101%)	・689t (115%)	愛知 (39) , 香川 (21) , 埼玉 (13)	→	愛知産は、1月中旬以降の低温及び干ばつ傾向となっており、現在平年よりやや少なめとなっているものの、2月の気温上昇により今後は平年並みの出荷の見込み。香川産は、定植期の天候不順により生育が遅れていた分が出荷を迎えていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。埼玉産は、定植遅れや生育の遅れにより出荷が遅れていたものの、最近の気温の上昇及び適度な降雨により生育が進んだことから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。
	417.58	487 (117%)	367.08	423 (115%)	406 (111%)	・175t (84%)	徳島 (31) , 長崎 (16) , 香川 (14)	→		
根菜類	ごぼう	318.13	435 (137%)	316.11	451 (143%)	447 (141%)	・213t (77%)		青森 (70) , 茨城 (12)	→
	188.58	297 (157%)	196.38	289 (147%)	293 (149%)	・158t (75%)	茨城 (41) , 青森 (22)	→	青森産の出荷が少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
果菜類	かぶ	152.86	147 (96%)	143.42	153 (107%)	155 (108%)	・324t (91%)			千葉 (88)
	137.79	147 (107%)	140.01	167 (119%)	173 (124%)	・41t (58%)	徳島 (47) , 福岡 (32)	→	千葉産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平年をやや上回っている価格は、引き続き平年をやや上回って推移する見込み。	

注：1 平均価格は、過去5カ年（平成24～28年）の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。
 2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。
 3 旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
 4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアで平成27年実績である。

2 トピック — いちごの需給動向について —

・いちごの語源
 いちごは、日本書紀にも登場し「いちびこ」と記載されている。その発音から、血のような色の奴（接頭後+血+彦、愛称のような呼び方）という説やすく赤い子（基（いち=凄く）+緋+子）という説などがあり、実の赤さ由来するという説が有力である。

・いちごの輸出入と世界生産量
 いちごは、生食需要が高くなるのは主に冬季であるが、生食や加工食品など、その用途は多岐にわたる。ケーキなどの加工向けは周年で需要があり、利益率の高い、安定した収入の得られる品目として作付けが推進されている。

・いちごの生産動向
 世界のいちご生産量は約770万トンであり、日本の生産量は約16万トン、世界の生産量の約2%となっている。日本のいちごは国内消費のほか、香港、シンガポール、台湾へ輸出されており、そのうち香港が84%を占める（平成28年、441トン）。香港への輸出が多い理由は、植物検疫の必要がなく、リードタイムが短くて済むこと、福岡県が出張所を香港に設置し、販売促進に努めており、この結果「あまおう」が、ブランドとして定着するほど日本産のいちごが認知されつつあること、が挙げられる。いちごの航空輸送量は、平成16年以降、一貫して増加し続けている。

・いちご戦国時代
 生食用の市場シェアは、関東圏では栃木県の「とちおとめ」、関西圏では福岡県の「あまおう」が主流で、この2品種で約65%を占め、これに佐賀県の「さかのぼか」、静岡県の「紅ほっぺ」をふくめて75%超を占める。

・産地としての、特徴のある品種を持つことにより、差別化を促進でき、一層の有利販売につながるという新品種の開発に意欲的であり、国、地方自治体及び民間において開発登録が行われている。最近では、話題になった白いちごの開発が有名である。

・いちごがインバウンド消費に果たす役割
 観光農園などの体験型観光農業が有力な観光コンテンツとしてインバウンド消費の面においても注目されつつある。日本のフルーツ等が、美味であることを知る訪日観光客も少なくない。産地で自ら収穫して食べられる果実狩り等の需要が、今後ますます高まると予想する民間シンクタンクもある。

・端境期における国産出荷への期待
 野菜は、周年で需要があるため、その需要に応えるべく、果菜類を中心に、露地、促成、抑制などの作型が全国各産地で普及しており、周年出荷が行われている。しかし、いちごの出荷には長い端境期があり、生産量が需要を大きく下回る時期に、海外から輸入されている。

・端境期においても国産いちごを使いたいという実需者が多いこと、端境期は全国的な出荷集中期より高値で取引されることなどから、国内でも端境期を狙った出荷を行っている産地もあるが、その出荷量は少ない。

・このような中で、栃木県における「なつおとめ」のような四季成り性品種の普及と生産量増加の取り組みにより、端境期を埋める品種などの育成による周年供給の達成と、国産いちごの消費拡大につながることを期待される。

図1 生鮮いちごの国別輸入量の推移

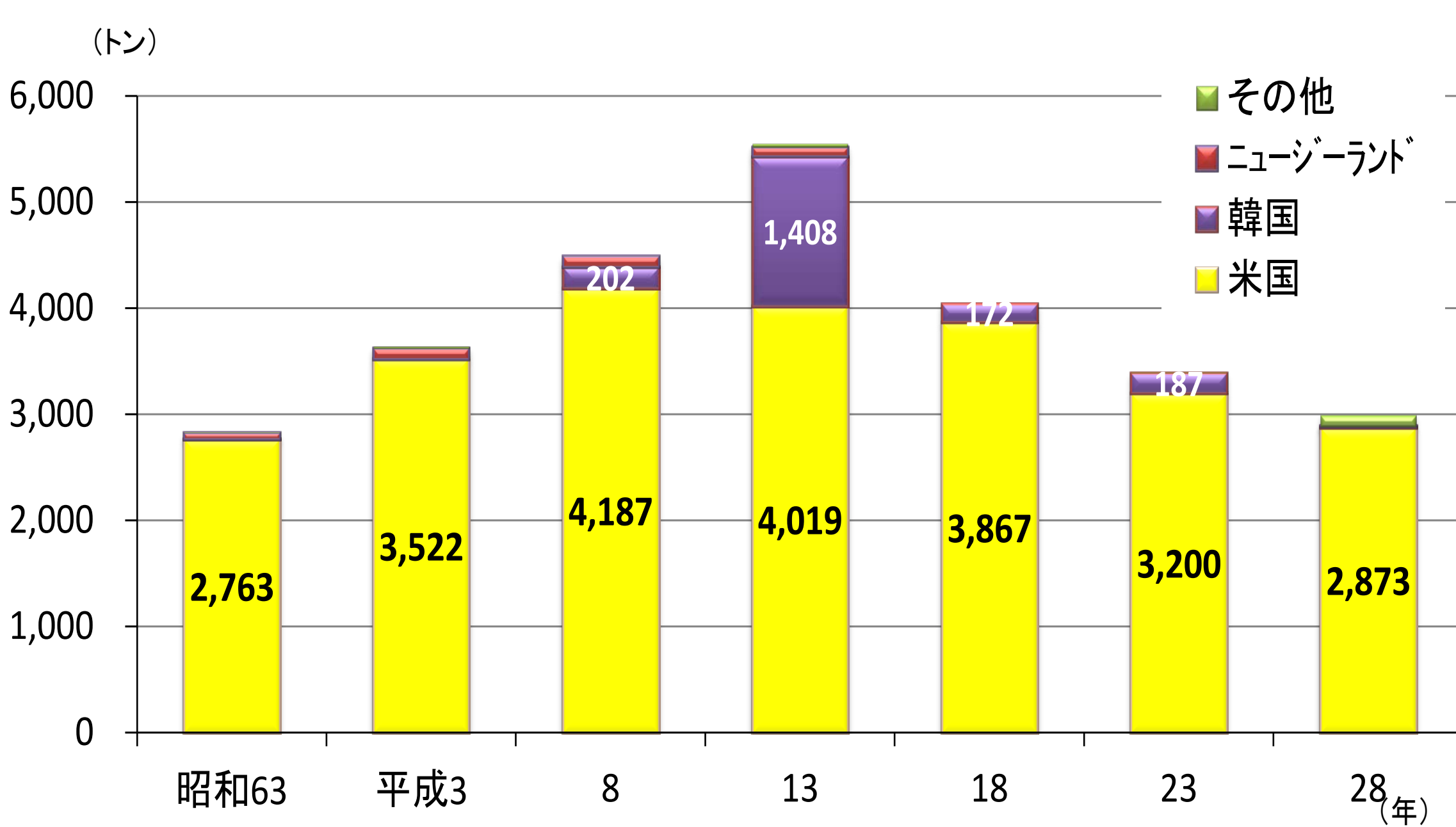


図2 生鮮いちごの国別輸出品

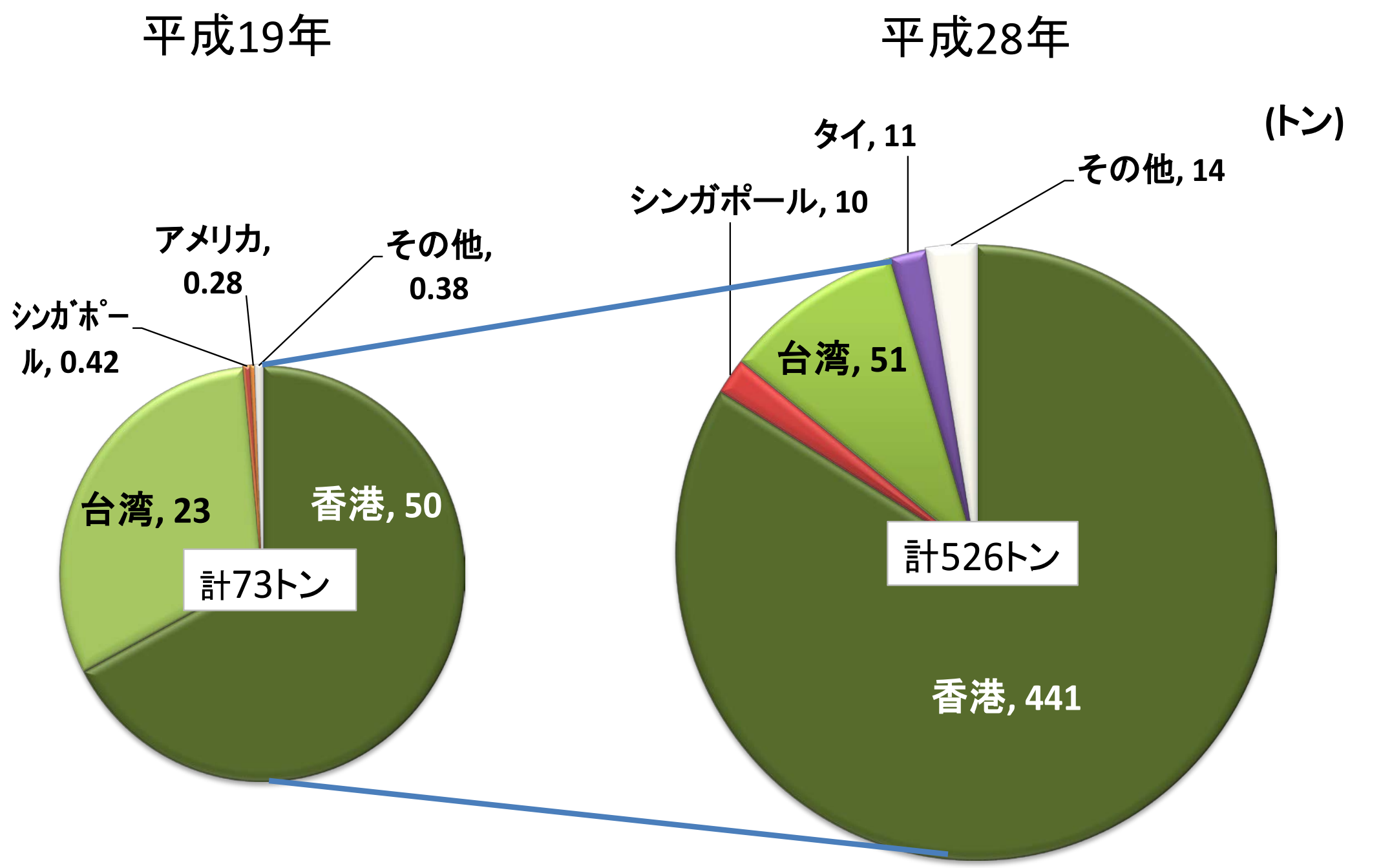


図3 世界の国別いちご生産量(平成25年)

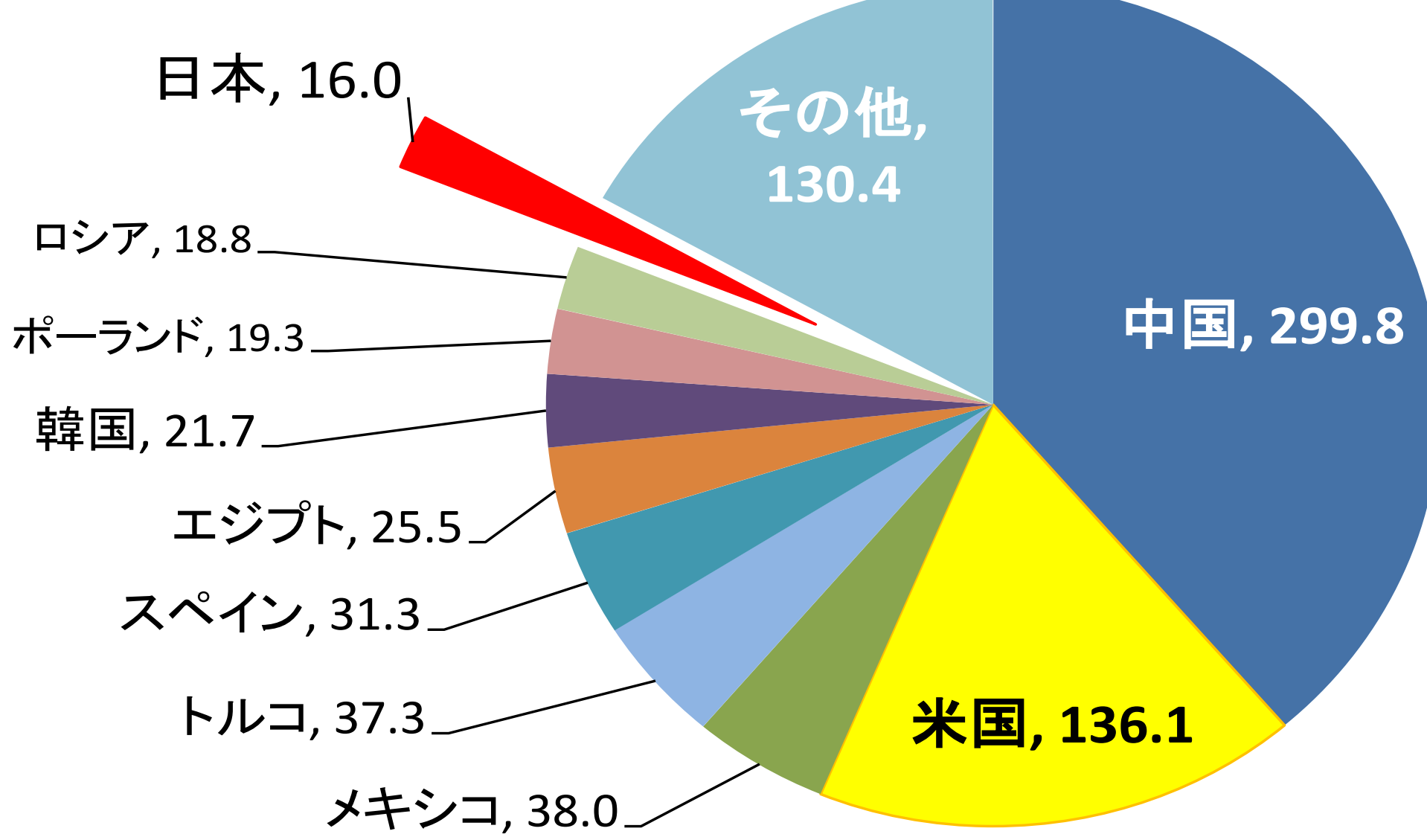
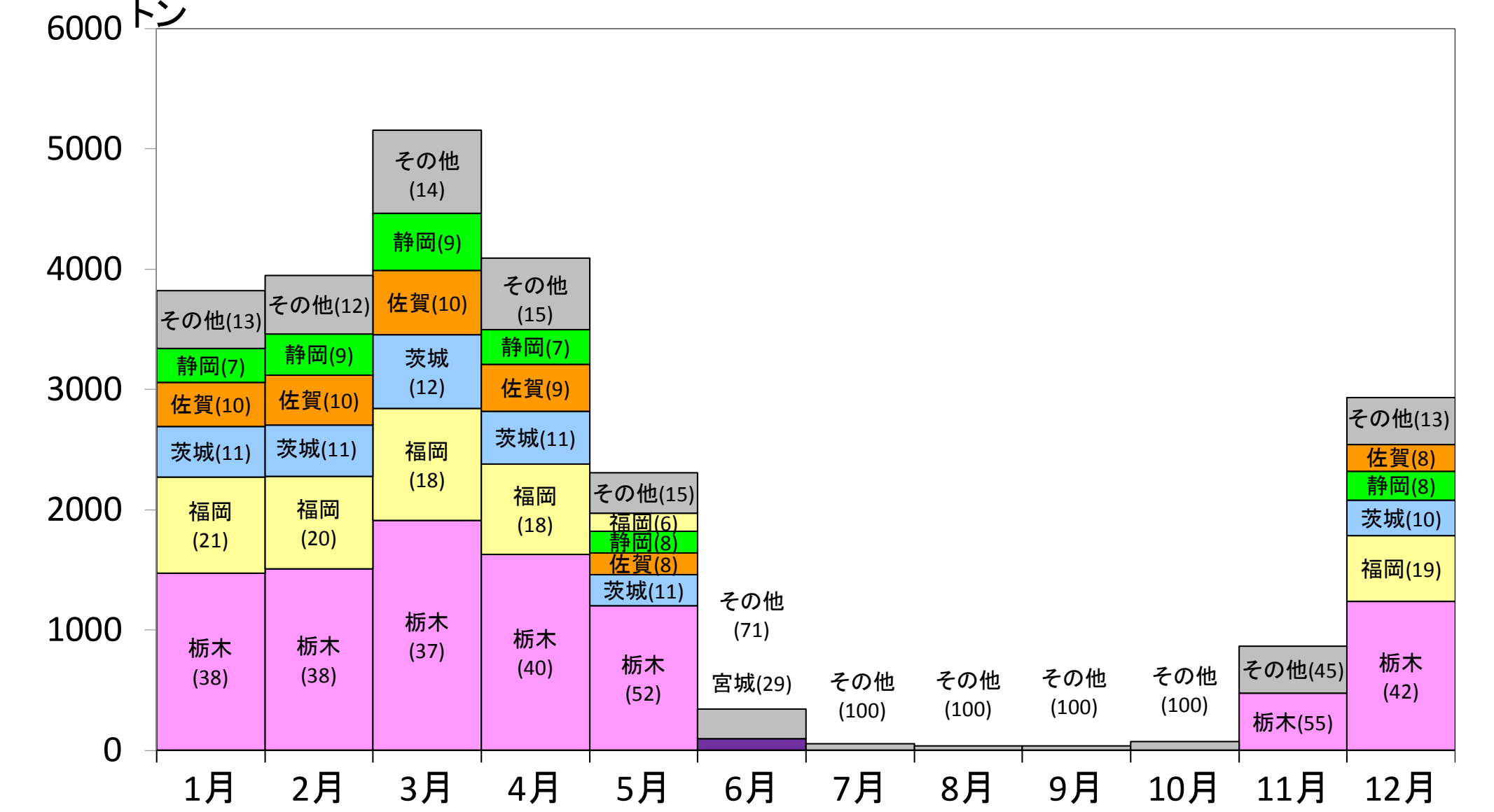


図4 いちごの主産地別月別入荷実績



資料：図1、図2 農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：財務省「貿易統計」、図3 栃木県農業試験場いちご研究所HPより機構作成（原資料：FAO 2013年（2016年5月現在）、図4 農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計）」

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 戸田、河原、松岡、海老沼 TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
 ◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メールマガジンから登録してください。
 ★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.aic.go.jp/vegetable_report.htmlに掲載しています。
 ※無断転載禁ず ・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。